

中学校教師による社会科地理的分野の教材研究—1枚の写真を通して

## 湯船地区（京都府和東町）の杉と日本の林業

作成：小林広和（こばやし ひろかず／京都府相楽東部広域連合立和東中学校 教諭）

寸評：山下宏文（やました ひろぶみ／京都教育大学 教授）\*

語り：「これは、和東町の湯船地区の杉林の写真です。和東町といえば、「茶産業が盛んな町」という印象がとても強いのですが、湯船地区の杉は良質な木材として知られており、奈良時代には東大寺を造営するための木材として搬出されていたそうです。また、この地区の杉にはしらたと呼ばれる赤みの少ない白い材が多く、明治時代には酒樽の鏡として重宝され、京都の伏見に出荷されていました。

第2次世界大戦中は国による軍事目的での強制伐採が命じられたため、湯船地区の杉林は大半が伐採されましたが、植栽を繰り返し行うことで、湯船地区の林業は戦後も盛んに行われました。

しかし1970年代までに、外国の安価で加工しやすい木材が輸入されるようになったことで、日本の林業は急激に衰退し、湯船地区の林業も同様の影響を受けました。現在の湯船地区の杉の多く



▲湯船の杉林

は戦後に植林されたもので、植林当初から十分に手入れが施されているため、優良な材として伐採時期を迎えています。しかし、杉を出荷するまでには多くの費用がかかるために、林業だけで生計を立てている林家は湯船地区に1～2軒しかなく、しかも高齢の方々であるというのが実情です。」

意図（小林）：和東町は「茶産業が盛んな町」として知られているが、湯船地区は林業が盛んに行われていた地域である。生徒にとって身近な地域の森林を教材として扱うことで、日本の林業と本町の林業の実態との間に共通性を見出させ、日本の林業への理解を深めさせたい。そして、本町の将来の担い手である生徒が、この授業を通してふるさと和東に対する興味、関心を高めることを期待したい。

寸評（山下）：中学校の社会科地理的分野では、「地域の環境条件を生かした多様な産業地域がみられること」をとらえさせようとしている。しかし、産業としての「林業」が大きく取り上げられることはあまりない。国土の3分の2は森林、しかもその4割が人工林という現状をもっと直視する必要がある。身近な所の森林・林業から日本の森林・林業をとらえさせようとする本教材の意図は重要である。

\*山下…〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1 Tel 075-644-8219（直通）